

《連載》シップブローカーズ名鑑⑧

アイエスシー

コンサルタントとして業界のパイプ役に

2001年創立のアイエスシー（本社＝東京・日本橋、堀内智明社長）は、堀内社長が代理店業務、船主業務、ブローカー業務の経験をもとに立ち上げた会社だ。設立当初から新造船建造・用船仲介、建造監督業務のほか、世界最大の船舶管理会社Vシップスの代理店を務めるなど、提供するサービスは幅広い。社員は3人でスタートしたが、現在は7人に増えた。このほか、主に新造船の建造監督に従事する契約社員が6人ほどいる。社員・契約社員は船主やオペレーター、船舶管理、船級、造船の各業務の経験者で構成されており、技術的な面を含めて、多面的に顧客をサポートできるのが強みだ。堀内社長自身は、米国船級協会（ABS）のコミッティーメンバーも務めている。

同社のビジネスモデルは「ゆりかごから墓場まで」（堀内社長、以下同じ）。すなわち、船が生まれるに当たっての新造船建造・用船仲介や建造監督、船が動き出した後の船舶管理、そして、一定の役割を終えた後の売船手仕舞い、さらにはその船のリプレースに至るまで、一貫してサービスを提供できる体制だ。得意とする分野はケミカル船。国内外のオペレーター向けに新造船の仲介実績は約50隻になり、このうち3分の1が新造段階からその売船処分までを一貫して手掛けた案件だ。売船隻数も約60隻ある。

最近では造船所、船主斡旋とそ



の後の海外オペレーター向けの用船仲介の案件が減少傾向にあることから、活動の範囲を徐々に広げている。その1つとして、東京の船主が国内造船所で国内オペレーター向けの新造船を建造するに当たり、その船主を地銀に紹介する融資斡旋の手伝いを行った。

これまでケミカル船を中心に一部LPG船も手掛けてきた同社だが、ドライバルク分野にも関心を持つ。2020年の国内バイオマス発電事業の本格化によりバイオマス原料の輸送需要が高まる見通しであり、10年前にPKS（パーム椰子殻）のスポット運航を手伝った経験も生かしていく。「国内荷主が自社運航も視野に入れながら勉強を始めている」という。

また、技術的なコンサルタント、建造監督は同社の強みの1つで、建造監督の実績は進行中の案件を含めて36隻。今後もタンカーやLPG船など特殊な船の監督業務を継続していく。

“シップブローカーズ&コンサルタント”を標榜する同社。「船

主とオペレーター、造船所とバイヤー、売主と買主の間の単なる紹介斡旋ではなく、継続的なパイプ役を目指したい。われわれブローカーは単なる一度きりの“口利き”ではなく、なくてはならない“仲介者”として手足を動かし、汗をかいて、専門的な知見でアドバイスし、それへの対価を頂くという立場でありたい」との思いからだ。「日本人だからこそ、日本の造船所、船主の立場を理解できる場所もある。オールジャパンで海外にアピールできれば」との思いも強い。

これまでに培った海事産業におけるネットワークと知見を生かして常にビジネスチャンスをつかもう。SOx（硫黄酸化物）スクラバーの勉強や、機器メーカーの技術協力を含めて、ブローカーとして、また、コンサルタントとして、業界内のコラボレーションを目指している。

現在、“アイエスシー・ユニバーシティ”と称して、海事産業の成り立ちや、ブローカーの立ち位置・役割を分かりやすく解説するマニュアル本の作成に取り組んでおり、年内の完成を目指す。「自分1代の仕事と思っていたが、これまで20年近く継続できたノウハウを若い人たちに継承し、次の時代に合った形で展開してもらいたい。そして、ブローカー業が海事産業の中でこれまで以上に認知される職種になってほしい」。このように望んでいる。

（この連載は随時掲載）

米上場ドライ船主4社、「ラッセル3000指数」に追加

米国で上場するギリシャ系船主4社、ジェンコ・ SHIPPING・アンド・

トレーディング、セーフバルカーズ、イーグルバルク・SHIPPING、ナビ

オス・マリタイム・ホールディングスは、米国株の代表的な株価インデ